

Men and Women for Others

上智大学

上智大学における環境教育・ESD

—環境リテラシーから環境人材育成プログラムへ—



HESDフォーラム2011

徳島大学

2011年11月20日

鬼頭 宏

上智大学経済学部・大学院地球環境学研究科／地球環境研究所

前史

- 1997年 法学部に地球環境法学科設置
- 1999年 地球環境研究所設置（法学部地球環境法センターを改組）
- 2005年 「持続的良き地球環境の享受のために」
- 2005年 大学院地球環境学研究科設置
- 2008年 「持続的良き地球環境の享受のための推進準備委員会」（エコ推進準備委員会）設置
- 2009年 「上智大学環境報告書2009」を公表

3つの取組



1 (学部)

- ・「グローバル社会における環境リテラシー教育 - 持続可能なグローバル社会の主体形成をめざして - 」
- ・文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)補助事業
- ・取組期間 2007～2009年度

2 (大学院)

- ・「政策形成対話の促進—長期的な温室効果ガス大幅削減を事例として」
- ・科学技術振興機構 社会技術研究開発センター研究開発プログラム「科学技術と社会の相互作用」
- ・取組期間 2008～2011年度

3 (大学院:地球環境学研究科・経済学研究科・理工学研究科・GSGS)

- ・「アジア大学間ネットワークを活用したアジア環境人材育成プログラム」
- ・環境省「環境人材育成のための大学教育プログラム開発」
- ・取組期間 2009～2011年度

新たな取組



- 1 (学内)教育イノベーション・プログラム
「全学的な環境教育の体系化」
2010～11年。現代GP取組のフォローアップ事業。
- 2 (学内共同研究)
「多文化共生社会におけるESD・市民教育の可能性」
2010～12年度。総合人間学部教育学科。
- 3 学生ファシリテーター派遣(2010年～11年)
 - ・外務省「日本・SAARC高校生フォーラム」(3回)
 - ・東南アジア・東アジアカトリック大学連盟第13回学生会議運営(2011年8月)。

2つの連携



1 HESDフォーラム

本組織(ESDプログラムに取り組む高等教育機関の交流組織)。

2007年より始まり、2010年に組織化。

2 環境人材育成コンソーシアム

「産官学民が連携し、日本及びアジアを中心とした持続可能な社会の構築をリードする環境人材の育成推進を図ること」が目的。準備会を経て、本年3月設立。本学は2012年度より正式加入が決定。

上智の精神と現代GP取組の目標



- 建学の精神:「キリスト教ヒューマニズム」
教育理念:“Men and Women for Others, with Others”
21世紀の世界が直面する地球環境問題に取り組むことは教育理念を実践することに他ならない。
- 環境リテラシー:新たな教養
グローバル化した現代世界を主体的に担っていく人間にとって、地球環境を正しく理解し、学び、良い地球環境を保持するために行動することは、必要不可欠な教養。
- 持続可能な社会を形成する主体(環境人材)を養成することが、大学にとって重要な使命。
- 取組目標:全学共通教育に環境リテラシー教育を構築。

取組目標の概要



1.体系的なグローバル環境リテラシーの構築

2. 各学部・学科の専門教育、大学院教育との連携

3. 体験型学習の導入

4. エコキャンパスの実現

求められる環境リテラシー



「人間学」と共に本学の教育理念を
具現する環境リテラシー教育

全学共通教育に新たな教養として
「環境リテラシー科目」を設置

21世紀における教養「環境リテラシー」

体験型学習・双方向型教育手法を
取り入れた多彩なカリキュラムを構築

総合的、体系的な
グローバル環境リテラシーを備えた、
国際的に活躍できる人材を養成

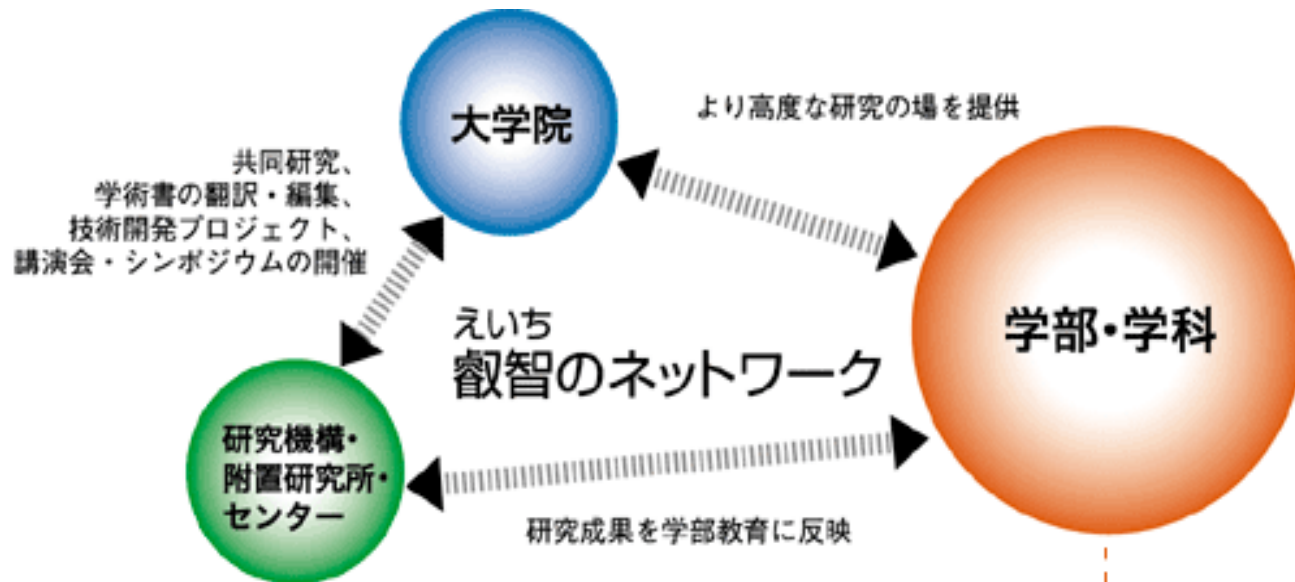
養成する人材



学部学科・大学院との連携



法学部地球環境法学科(4科目)、大学院地球環境学研究科(2科目)ほか学部・学科で行っている専門教育としての環境教育と連携を図りながら、全学生を対象に学術の基礎教養としての環境リテラシー教育の体制を整える(科目の開設と全学共通教育への開放)。



成果と課題



- ・ 地球環境系科目の充実:「地球環境の科学」「持続可能な発展と日本」「地球環境と経済」「地球環境と法・政策」「野外活動と環境」。
- ・ 全学共通教育の科目区分「地球環境系」新設(2010年度)。
- ・ 全学共通教育における管理体制は未整備。
- ・ コース認定証付与は断念→大学院(地球環境学研究科と接続を念頭に置いた)T(π)字型人材育成の導入・基礎として位置づけ。
- ・ 全学的組織「持続的良き地球環境の享受のための推進準備委員会」は消滅。学生、教員の連携は制度化されていない。
- ・ 地域連携:千代田区緑量調査、桜プロジェクトへの参加(公開学習センター)／秦野市里山整備事業(森林づくり課)との連携

環境教育・ESDに関する小活

- 本学における環境教育・ESDの重要性
- 専門教科・コースではなく全学共通教育に設置・すべてをESDにつなぐ（岩手大学の試み）。
- 学科・大学院との連携＝T(π)字型人材育成
- 全学共通教育の枠が問題（キャリア形成教育などと時間枠をめぐって競合）
- 科目群の管理が問題（組織・体制）。新たな学系設置よりも、他の系を束ねる上位の学系を検討（現行の「共生と世界」に近い？）。

体験型学習の導入



- ・秦野キャンパスを活用し、自然体験学習「野外活動と環境」を2009年度より開講。
- ・ボランティア活動、インターンシップなどの体験型学習を奨励し、地域社会及び開発途上国での社会貢献できる人材の養成をめざす。



学生の活動・地域連携



- 教職員、学生が一体となって実施する学内環境活動との連携を図り、エコ・キャンパスの実現
- 「環境報告書2009」の作成
- 学生環境会議の開催
- 環境サークルの自主事業
- 地域連携

秦野市 里山保全活動

千代田区 緑量増進プログラム

桜プロジェクト

